

# 100周年記念ル・マン24時間レース、連覇ならず！平川亮選手に直接インタビュー！

今年100周年の記念大会が6月10日(土)～11日(日)に開催された。かつてSUPER GTのKeePerマシンのドライバーであった平川亮選手は今年もTOYOTA GAZOO Racingのドライバーとして参戦。今年はフェラーリ、キャデラック、ボルシェなども加わり、過去最多の16台のハイパーカーが競い合った。昨年優勝に輝いたセバスチャン・ブエミ選手、ブレンドン・ハートレー選手、平川亮選手のGR010 HYBRID8号車は、BoP(バランス・オブ・パフォーマンス=性能調整)により37kgも増加を課せられ、総重量は1080kgに(フェラーリは24kg増加の1064kg)。しかしながら最後までトップ争いに生き残り、フェラーリとの一騎打ちを繰り広げるものの、最後の2時間、平川選手のドライブ中のクラッシュにより惜しくも2位チェッカーとなった。レースが終了して3週間後の平川選手の想いを聞いた。



## WEC参戦が決まった2年前からプレッシャーをずっと感じていた。

今年ル・マン100周年ということでフェラーリやボルシェ、キャデラックなどの他メーカーが入ってくることは、僕がWECに参戦することが決まった2年前から意識していて、チームの中でも勝ちに行くムードがありました。さらに昨年トヨタが5連覇して、6連覇は当然というプレッシャーは2年前からずっとありました。レースでは終始、フェラーリの速さを超えるにはどうしたらいいかを考えていました。

## 体力と神経を酷使する孤独な走行。リスクを取らないようにドライブした。

今回初めて雨のル・マンを経験しました。夜の豪雨の中の走行で前が見えなかったり、わだちにたまった水を避けてわだちの上を感覚で走行しなければならなかったり、動物をひいてしまったりと体力と神経を酷使する、孤独な走行でした。それでも無線でチームと通信しながら、他マシンの状況や自分の走行を確認すると意外にペースは悪くなく、リスクを取らないように心がけてドライブしました。何度かトラブルはありましたが、なんとか持ち堪え、フェラーリと8号車の一騎打ちはず

と続きました。ハートレー選手がものすごい速さで走行している間、実は最後のドライバーを誰にするかチーム内で30分ほど話し合いがありました。順番としても僕だったのですが、昨年の実績を信頼してもらい、差が10秒まで縮んだ時点で、リスク背負っていいから全力でアタックしていこうと僕にステアリングが託されました。

## 僕も車もポテンシャルは高かったが、ブレーキをロックし、クラッシュ。

4スティントもの走行を終えたハートレー選手からはブレーキに気をつけること、気温や路温など8号車に有利な条件が揃っていることを受け継ぎ、乗り込みました。大事な場面で、僕のモチベーションも車にも大きなポテンシャルがあったが、最後2時間でブレーキをロックし、クラッシュしてしまいました。チームは車の状態を常にチェックできるので、クラッシュした時点でどこが破損しどう修復するかを判断し、最小限のロスでコースに戻れたことには本当に助けられました。

## 「2位を取れたことを喜ぼう」という言葉に励まされ、立ち直ることができた。

3分に広がっていた差を1分21秒まで縮めたものの2位に終わってしまい、本当に悔しくて、しばらくずっと立ち直れませんでした。2020年のSUPER GT最終レ



スの時も悔しかったです。燃料切れで僕にはどうしようもなかったので、今回の2位はまた違う悔しさ、申し訳なさがあります。僕も車もポテンシャルがすごく上がっていたので、クラッシュは本当に痛恨でした。

立ち直れないほど落ち込みましたが、「2位を取れたことを喜ぼう」という周りの声に励まされました。またなぜそんなミスをしたのかを分析したことで自信につながりました。

## 失敗からどれだけ学べるかが重要。チームを引っ張っていく自覚を持っていく。

ル・マンの時より車への理解も増えました。この失敗を絶対生かさねばならないし、失敗にどれだけ学べるかがこれからのレース人生にとって大事です。今後はチームを引っ張っていく立場にならなくてはいけないという自覚もあります。これからのレース、そして年間チャンピオンへのモチベーションは今ではありません。



## キーパーの新任CFOがSONAXを初訪問！

### コロナ明け、直接の共同開発が復活！！

去る5月24日、ドイツのカーケミカル製造メーカーSONAXを谷会長、増田部長、そして新任CFOの山下が訪問しました。

KeePer技研とSONAXは、2001年に共同で開発した「ダイヤモンド・キーパー・ケミカル」を販売開始して以来、非常に重要なパートナーシップを築いています。SONAXの皆さんと直接顔を合わせることができ、互いに再会を喜び、あいさつを交わした後、SONAXの役員と世界の環境規制についての意見交換、今後の開発の方向性、容器改良案、マーケティングなど、多くのトピックについて話し合いました。現在、KeePer技研ではESG開示の準備中ながらも、環境問題に世界で一番厳しい欧州ドイツを拠点とするSONAXと規制動向について意見交換、製品開発を進めることは大きなアドバンテージです。今後一心同体となり、将来にわたってともに発展していきます。



アプリケーションセンターでは、増田製品開発部長が新製品開発の実験を重ねていました。一緒に作業をしている女性は、短時間ながらも増田部長から学ぼうという姿勢が素晴らしくKeePer気質でした。

ホフマン社長には「KeePer技研と今後もこの関係を大切に、持続的な進化を遂げることを目指します」という言葉いただきました。今度はホフマン社長が来日してくださいそうです！

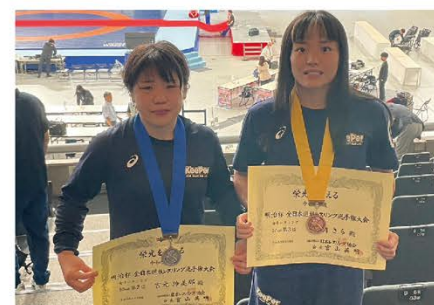


Dr.ピッチはKeePer製品開発の立役者で、今回KeePer技研との開発の始まり、フレッシュキーパーがなぜ雨で勝手にキレイになるのかを説明していただきました。

## 吉元玲美那選手/岩網さら選手

### KeePer® ロゴ入りユニフォームでレスリング全日本大会の明治杯に挑む!!

6月15日から18日に東京体育館でレスリングの明治杯全日本選抜選手権が行われました。明治杯とは天皇杯全日本選手権と並び国内レスリング大会の2大会の一つです。4日間にわたり、全日本トップクラスの選手によるハイレベルな戦いが繰り広げられました。この大会にKeePer技研株式会社所属の岩網さら選手と吉元玲美那選手が出場。今大会から、ユニフォームがKeePer仕様になり、KeePerのロゴを背負って全日本の大会に挑みました。観客席からでもしっかり目立っており、練習着のTシャツやジャージもKeePer一色。今後も大いに期待できそうです！



【結果】  
吉元玲美那選手(50kg級)2位  
岩網さら選手(57kg級)3位

吉元選手は大健闘の2位。悔し涙が止まらない姿に心を打たれました。



KeePerのロゴが青・赤のユニフォーム、紺色のTシャツによく映えています！